

令和4年6月5日、鹿深夢の森を主会場に第72回全国植樹祭が開催されました。全国植樹祭の開催を契機に、森林の保全や森林整備などの森づくりに対する市民の関心が高まっています。甲賀市では森林の保全に向けた活動が地域でも行われています。

「木の駅」の取り組み

甲賀木の駅運営委員会では約10年前からボランティアの皆さんによる森林保全活動を目的に様々な活動が行われており、昨年12月にも一般の方を対象にした山の木の受け入れが行われました。この取組では地域経済の活性化を促進する目的で「モリ券」が発行され、地元商店で商品との交換も行われています。今回は、甲賀木の駅運営委員会の大原久和代表にお話を伺いました。

活動を始められて10年が経ったとお聞きしましたが。

大原 平成25年に当時の愛林クラブの役員で先進地の視察に行き、地域の森林資源や人的資源を活用し



代表の大原久和さん

ながら山林再生を目的に、平成26年に甲賀木の駅運営委員会が設立されました。

当初のご苦労は大きかったと思いますが。

大原 最初は予算もなく機械もなかったので、人の力での作業が大変でした。2年目からはチェンソー講習会を行い、ようやく木が切れるようになりました。チェンソー講習会は今年も年3回行っています。また、木の駅となる土場もなく苦労しました。平成29年からはここ（大久保地先）をお借りできるようにになりました。

モリ券もすばらしい取組ですね。

大原 モリ券の取組は当初から行っていますが、森林保全と地域経済の活性化につながればと思っています。現在18店舗の協力店がありますが、今後増やしていきたいと考えています。

全国植樹祭はどうでしたか。



鹿深夢の森近くの木の駅

大原 近くの鹿深夢の森が主会場となり、多くの方々に活動を知っていただけたのと、木の駅のPRにもつながりました。

今後の活動や森林や里山の保全についてお考えは。

大原 何でもそうですが人口減少が大きな課題で、多くの若い世代に森林や里山に関心を持ってもらうことが大切だと思います。持続性も重要で、5年前から行っている甲賀福祉作業所の皆さんによる薪割り作業も続けていきたいと思っています。農福連携

森林と里山を守る

はよく聞きますが、林福連携も頑張ります。
お忙しい中ありがとうございます。



甲賀福祉作業所の皆さんによる薪割り

今回は甲賀木の駅運営委員会代表の大原さんにお話を伺いましたが、その他にも森林の保全や森林整備を目的に活動されている団体があります。かふか林業研究会、甲賀愛林クラブにもお話を伺いました。また、市内の学校では以前から緑の少年団の活動も行われており、全国植樹祭の開催を契機に広がっています。甲賀市の森林や里山をみんなで守っていききたいものです。

かふか林業研究会



「かふか林研」(会員30名)では林業技術の研鑽、後継者の育成、特産品開発等の計画のもと、近年は県、市から「やまの健康」木の駅関連事業の助成を受け、間伐材の搬出、薪の生産を中心に現場での独自活動を展開。
その他「愛林クラブ」との連携支部活動や県・市主催の林業啓発イベントへの参画や県下各林研グループ会員との交流事業にも参加しています。

かふか林業研究会会長 水上 重彦



甲賀愛林クラブ



本クラブでは平成16年から上下流連携の森づくり事業として、毎年皮はぎ間伐のイベントを実施しています。

私たち上流側の者が下流域の人たちを森林整備、特に間伐の大切さを伝えることが大切と考え、大阪府豊中市民を招き市民と交流を深めています。また、豊中市との交流でも毎年「とよなか環境展」に参加、大変好評を得ています。

甲賀愛林クラブ会長 中村 典也

